

に同居していたが、現在の乃木坂のブライダルハウス完成と同時に、夫、姑とともにブライダルハウスの六、七階に引越した。

小岩の学校、祐天寺と乃木坂と三つを駆け回るのとはとても無理……。姑が八十を過ぎたので、何かあった時に祐天寺で看病をしていたら大変です。乃木坂なら職住一致だから、ここで看病して、お店で私に何か用があったら降りていけばいい。そう話したら主人が賛成してくれたんです。ただ彼には絶対に日当りのいい場所にしてくれよな、と言われましたので、乃木坂の家は東南に面してすぐく日当りのいい場所なんです。七階が主人の和室と私の洋室。六階に姑の部屋とリビングルーム。主人と私合わせて一万冊ぐらい本や雑誌を持っていたので、可動式の本棚を置いて。私は自分の部屋でデザインしていたので、窓際に机を置き、掘りごたつ式にしてみました。

していないから聞かなかった。さすがに死ぬ間際には、どこに預金がある、どこのゴルフ場の会員権がある、とちゃんと書き残してくれていましたけど。預金の話は全然聞いていなかったもので、その帳面が無かったら大変でした(笑)。一九九〇年に主人が亡くなり、一年ぐらい経ってから今の赤坂のマンションに引越しました。一人では広すぎるのと、店が狭くなったんです。

が、来年二月に東京で開催するショーで、そのドレスを発表する予定です。よくみなさんに「ずっと仕事をできて、いつの時代が一番良かったですか？」と聞かれるんですが、それは断然、結婚式が多様化している今です。六五年に開いた最初のコレクションでは、「七つの個性をデザインする」というテーマで、七人の女優さんたちに出してもらって、それぞれの個性を生かしたドレスをデザインしました。そして日本人が個性的になるまで四十数年かかって、今まさにデザイナーとしてやりがいがある時。そうした途端、皮肉なことに婚姻率の減少が起こった(笑)。私は結婚が決まった人のお手伝いをするのが本来の仕事ですが、「結婚っていいものよ」というムードを作り上げて行くことも大事だと思うんです。だから、行政や企業と協力して、日本全国百カ所をプロポーズにふさわしいデートスポットとして認定する「恋人の聖地プロジェクト」を発足させました。現在八十カ所まで決まったので、完成まであと少しです。

(取材・構成 小柳美佳)

風の道しるべ

下重暁子の

183 取手蛍輪

競輪ならぬ蛍輪である。何だろうと思つて期待して出かけた。九月の二十六日、取手競輪場。今年で五回目。足でこぐ自転車、エネルギーを電気に変え、様々な光の風情や発想力をきそいあう競技で、毎年奇想天外なアイデアが出現する。午後六時過ぎ、市民や地元選手もボランティアに加わって、六百人の観客の前で披露された蛍輪とは……。

自転車に張り子の仔馬をのせ、走るたびに馬の目が青く光る。七輪でさんまが焼ける自転車。これらは地元青年会議所のもの。取手に居を移した東京芸大の手による、ステンドグラス風行灯。七十二個の青いライトを波のように車輪の中心できらめかせてさっそうと手を振るケンチャンマン。地元企業のキンビールは、のどごし(生)の樽とジョック

しもじゅうあきこ・作家 財団法人JKAA会長

高齢化が急速に進む中、老後を安心して健康的に過ごすことの出来る住まいの確保は、重要な課題のひとつ。高齢者の方々が、健やかな生活を送ることが出来る社会を目指して、ケイリンは、高齢者生活共同運営住宅(高齢者生き生きグループリビング)開設・運営を支援しています。みんなの夢をカタチにしたい。明るい未来をカタチづくりたい。それが、競輪の補助事業、RING!RING!プロジェクトです。

http://ringing-keirin.jp/